

小林市議会「市民との意見交換会」地区別意見交換会【報告書】

開催地区	幸ヶ丘小校区	担当班	議員名	担当
参加人数	7 人（男性 5 人 女性 2 人）		高野 良文	司会進行
開催日	平成 2 9 年 7 月 1 9 日（水）		杉元 豊人	活動報告
開催時間	午後 7 時～午後 8 時 2 0 分		鎌田 豊数	記録・報告書作成
会場	生駒公民館		穴見 嘉宏	
その他			高野 良文	当日荷物搬入
		4 班	西上 隆	受付

◎班代表者 杉元 豊人

意見交換会の内容		※□市民の意見	■議員の意見
統一テーマ	「地域交通について」・「空き家活用について」		
【意見交換の概要】			
「地域交通について」			
□都城市庄内地区の乗り合いバスの取り組みを参考に、「にっこばまちづくり協議会」が地域内コミュニティバスの運行について市に提案した。他のきずな協働体からは出ていないのか。			
■今のところ「にっこばまちづくり協議会」だけである。			
□停留所から病院までが遠かったが、議員に伝えたところすぐに対応してもらい病院前に停留所ができ喜んでいる。			
■他の地区でも停留所や路線についての要望が出ている。総合的な見直しを行っており、議会でも議論を深め、地域の意見を伝えていく。			
「空き家活用について」			
□南ヶ丘地区には「茶のん場」がない。空き家を利用できないか。			
■野尻地区では、市の予算で商工会青年部が主体となり、空き家を改装し活用しようとしている。このような例もあるのでこれを先例として、今後、空き家活用が進むことを期待している。			
□空き家を利用するにあたって補助制度があるのか。			
■空き家バンクに登録している賃貸物件で移住者と契約が成立した場合、空き家の所有者に対し最大50万円の空き家改修補助がある。この補助金は、家財道具等の運搬及び廃棄にも使える。			
□空き地も草が生い茂っている。早めに対策をとらないと所有者に連絡が取れなくなるのではないか。			
■空き家、空き地の所有者の把握は課題になっている。各課横断的な取り組みが必要にな			

っていると考える。今後も、議会全体で議論を深め、提言につなげていく。

□産業に結び付く空き家の利活用が必要ではないか。

■日南市では、古い民家を活用し観光につなげ、外国人が多く利用している。空き家の所有者が利活用しやすくなるよう、今後さらに議会全体で議論を深め、提案につなげていく。

自由意見の交換

※□市民の意見 ■議員の意見

□6次産業化に取り組んでいるところは何件あるのか。

■行政で把握しているのは21件である。

□小林地区ではテレビの局数が少ない。若者定住のためにもケーブルテレビの導入はできないのか。

■野尻地区導入の際は国の補助が9割あった。多額の経費が必要となるためこのような補助がなければ単独で導入するのは難しいと思われる。

□小林市には子供が入院できる病院がない。都城市や宮崎市に行くのは大変。安心して出産し、子育てができる体制を作してほしい。

■2市1町で市立病院を西諸の中核病院として産婦人科、小児科の設置に取り組むという合意ができた。また、医師の待遇改善等にかかる予算を県に要請して確保を求めている。

□国保税が毎年上がっているのではないか。

■一般会計からの繰り入れにより国保税率を据え置いている。課税限度額は、現在89万円である。

□災害発生時にどこの避難所が開設したのか情報を早めに連絡し、高齢者が早く避難できるようにしてほしい。

■防災メールでお知らせしている。活用していただきたい。このことについては担当課に伝える。

□野尻大橋には歩道がなく通学の自転車の通行には危ないと思うが。

■要望はしているが実現していない。一般質問や委員会審査を通して質していく。

□小林市で結婚式を挙げる人に補助金を出したらどうか。宮崎市や都城市で挙げる人が多いがお金がよそに落ちる。小林市にお金が落ちる工夫をすべきではないか。

小林市で結婚式を挙げようという条例を制定したらどうか。

■当局に伝える。

◎小林市立病院での産婦人科（分娩）再開について

意見交換会では、小児科・産婦人科の充実を求める意見が各地区で出されました。その後、西諸出身の医師を中心とし、宮大医学部産婦人科の支援のもと、平成30年7月から小林市立病院での産婦人科（分娩）を再開する運びとなりました。また、9月定例会では、妊婦等に対し通院にかかる交通費として妊娠1回につき2万円交付する予算が可決されました。

議会活動報告への意見

※□市民の意見 ■議員の意見

□市民からの意見に対してはすぐに対応し行動してほしい。

■議員に伝える。